

元気かいだ!

Q & A

読者からの質問、疑問に
お答えするコーナーです。

東京女子医科大学

八千代医療センター小児科

濱田洋通 医師

寺井 勝 院長

Q 川崎病について教えてください。

川崎病ではどんな症状がでますか？

A 発熱が5日以上続き、目が充血し、唇が真っ赤になり、舌が

ちごのようにポツポツ赤くなります(いちご舌)。また、首のリンパ節が腫れて首を動かせなくなり。手や足の裏を中心に皮膚が赤くなり、発疹が出ます。手足はむくみます。BCG接種部位が

赤くなるのも特徴です。

体の血管が炎症をおこして腫れることでこれらの症状が現れます。目や唇は皮膚が薄いので、血管が赤く腫れるのがわかるのです。つまり、川崎病は「子どもの血管炎の病気」です。4歳以下の小さい子に起こりやすい病気で、年1万人以上が罹患し、年々増加していることが全国調査で明らかになっています。近年、知り合いのお友達が「川崎病になった」と聞くようになりました。

自然に治る病気ですか？

治療法はありますか？

A 治療は、免疫グロブリンという点滴の薬を使います。アスピリンという内服薬も同時に服用します。

2〜3週間で自然に解熱するのですが、発熱が長引くと動脈が炎症で傷つき、拡大や瘤(こぶ)になってしまいます。特に心臓に近い冠動脈に多く、無治療だと4人に1人の割合で冠動脈に変化を来します。冠動脈は心臓の細胞に酸素や栄養を与えている血管です。後遺症が重いと、子どもの時期から狭心症や心筋梗

塞の恐れと戦わなければなりません。

従って、後遺症を残さないために、早めの治療開始がポイントです。しかし、炎症が激しい2割の子には、この薬が効きません。この薬で解熱しなかった子は後遺症を残しやすく、現在新たな治療法が模索されています。

予防法はありますか？

二度はかからないのでしょうか？

A 残念ながら、どうして血管に炎症がおきるのかわかっていません。

予防法がないのが現状です。兄弟や保育園・幼稚園で伝染して広がっていくことはありません。もともとアジア人に多いので、遺伝子の研究がなされ、かかりやすい体質のあることがわかってきました。一度川崎病になった子は、3%の確率でもう一度かかります。これは一般人口の罹患率の数倍です。

早めのかかりつけ医受診、早めの治療開始で後遺症を防ぎましょう。

